



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2021年
No.2
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

副作用の発現



事例

【事例の詳細】

患者に、以前からシベノール錠100mg 1日3錠分3毎食後が処方されていた。薬剤交付時、患者から、時々ふらふらすることがあるが食事を摂ると症状が治まることを聴取した。患者は80歳代で腎機能が低下している可能性があることから、シベノール錠の副作用である低血糖症状の発現を疑った。処方医へ問い合わせを行い、患者の症状と副作用発現の可能性を伝え減量を提案した結果、シベノール錠100mg 1日2錠分2へ減量になった。今後も注意が必要であることから、定期的に血液検査を実施することを処方医に提案した。

【推定される要因】

患者は、ふらつき症状は食事をすると改善することから薬剤との関連を疑わず、処方医に伝えていなかった。

【薬局での取り組み】

患者から、日頃から気になることはないかを積極的に聴取する。



その他の情報

シベノール錠50mg / 100mgの添付文書（一部抜粋）

【効能・効果】

下記の状態では他の抗不整脈薬が使用できないか、又は無効の場合

頻脈性不整脈

【使用上の注意】

2. 重要な基本的注意

(2) 本剤の投与中は、臨床検査（血液検査、肝・腎機能検査、血糖検査等）を定期的に行い、必要に応じて適宜本剤の血中濃度を測定すること。異常が認められた場合には、減量、休薬等適切な処置を行うこと。特に高齢者及び腎機能障害患者では、血中濃度上昇により低血糖が、また、基礎心疾患のある患者では、心機能抑制作用及び催不整脈作用に起因する循環不全によって肝・腎障害があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止すること。



事例のポイント

- 薬剤師は、薬剤の服用により発現する可能性がある副作用を把握したうえで、患者から日頃の体調の変化などを注意深く聴取することが重要である。高齢者は加齢に伴う腎機能の低下によって副作用が発現する可能性が高いため、特に注意する必要がある。
- 患者は体調に変化が表れても、服用している薬剤に起因する副作用であると気づかないことが多い。
- 副作用発現を早期に発見するには、患者や看護に当たる者に対し、特に注意が必要な重篤な副作用や発現頻度が高い副作用の初期症状などを丁寧に説明し、該当する体調変化が見られたときは速やかに医療従事者に伝えるなどの対応も併せて指導することが重要である。
- 臨床検査を定期的に行う必要がある薬剤を服用している患者には、薬剤師は検査の実施状況を確認し、検査値を把握する必要がある。実施していない場合は、処方医へ必要な臨床検査の実施を提案することが望ましい。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。